

**福島県学校給食研究会
栄養士部会**

第96号

令和2年2月1日
福島県学校給食研究会
栄養士部会
発行責任者 赤津由紀子
担当 県南方部**会 報****「自ら！」そして「力を合わせて！」
あきらめないで 学び続けるまめがらっ子**西白河地区学校給食研究会 会長 白河市立白河第四小学校長 **新田直子**

本校では学校の住所「豆柄山3番地」にちなんで、子どもたちを「まめがらっ子」と呼んでいます。果樹園、田畑、木々に囲まれた自然豊かな白河第四小学校。「心と体をきたえ、進んで学び、がんばりぬく子ども」という教育目標のもと、今年度は標題の重点目標を掲げました。「自ら！」人・こと・ものにかかわり、目標に向かってあきらめずに「力を合わせて！」学び続けることで力を伸ばすことを目指しています。また「まめがらっ子トリプルA」（あいさつ、ありがとう、あきらめない）を合言葉に、「仁（思いやり）の心」を育むことにも力を入れています。保護者、地域の皆様の温かな協力に支えられ、まめがらっ子184名は日々の教育活動に元気いっぱい取り組んでいます。

まめがらっ子の元気の源が、毎日のおいしい給食です。本校の給食は白河市学校給食センターからの受配で、季節に応じた献立、白河の郷土食を取り入れた献立等を、子どもたちも職

員もみんな楽しみにしています。それは、栄養士の皆様が、おいしい給食が提供されるよう、栄養のバランスを考えながら、季節を感じさせる旬の食材を用いて、献立に様々な工夫を取り入れてくださっているおかげです。また、旬の食材を提供してくださる地域の方々や、調理員の方々など給食に携わる皆様のおかげで、おいしく安全な学校給食を日々提供いただいておりますことに心より感謝申し上げます。さらに、5年生のバイキング給食や、各学年で食育の授業にも協力をいただいております。

学校給食や食育の授業は、子どもたちに「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育む大切な機会と考えています。今後とも、食の指導や生きた教材である給食を通して、子どもたちに健やかな体と心、たくましく生き抜く力を育むことができるよう、よろしく願いいたします。

**『ライフ・ワーク・バランス』**福島県学校給食研究会栄養士部会 副部長 **櫻井長子**

二学期始業式後の職員会議で、校長先生から「年休は、年度末までに5日取得してください。」とお話がありました。管理職の先生から年休の取得についての説明を職員会議でされるのは、初めてのことだったので働き方への考え方が変わってきているのだということを感じました。平成19年12月に、「仕事と生活の調和（ライフ・ワーク・バランス）憲章、内閣府」が策定されました。その中に「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とあります。

毎日の給食業務、年間計画に基づく指導、突発的な仕事や日々の仕事に追われていると、どのように「ライフ・ワーク・バランス」に取り組めばよいのかを考える時間を作ることも出来ずに目の前の仕事をしているのが現状です。

しかし、令和の時代には「仕事の効率化」を図るために、研修会や勉強会での情報交換を行い、職場の先生方と「忙しい」を言い訳にしないで「仕事の効率化」について、一緒に考えることも必要だと思います。

食事バランスで鍛えた感覚を、自分の仕事と生活の「ライフ・ワーク・バランス」をとることもつなげてまいりましょう。

「南会津方部での活動ありがとうございました。会津方部での活動よろしくお願ひします。」

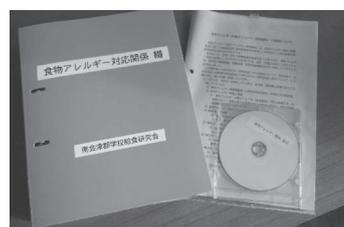
南会津方部長 横田 みえ子

福島県学校給食研究会栄養士部会での南会津方部としての活動は、令和元年度で幕を閉じます。思い起こせば、私が採用された昭和57年の頃から、南会津方部は独立して活動していました。南会津方部は、今は亡き星サツキ先生が中心となって8名が楽しい雰囲気の中で活動していました。少人数のためまとまりがよく、自主研修では、キムチ作りや味噌作りの体験、洋食マナーを学習するため東京に出向いたこともありました。また、15年前福島県で開催された全国学校栄養職員研究大会では、式典係として協力することができました。

平成27年度には、協議会の補助事業を活用し、食物アレルギー対応マニュアルを作成しました。各学校に実態調査をお願いし、要望等を把握した上で、公益財団法人福島県学校給食会より発行された「学校給食と食物アレルギー」

を参考に、南会津郡内で活用できる様式や進め方などを検討して冊子にまとめました。南会津郡内の小中学校に配付し、医師の診断書をもらうこと、面談を実施することなど、各学校足並みをそろえて対応することができるようになっていきます。

来年度からは、会津方部の一員として、新たな一歩を踏み出します。大勢の会員との交流は、学ぶことも多く、みんなワクワクしています。「できることは積極的に協力する」気持ちを大切に進んでいきたいと思ひます。会津方部のみなさん、どうぞよろしくお願ひいたします。



<郡内で作成したマニュアル>

「学校給食を支え、守るメインサポーターを担う給食会」

公益財団法人福島県学校給食会

事務局次長兼総務課長 三浦 初男

日頃から、福島県学校給食研究会栄養士部会会長様を始め、会員の皆様におかれましては、本会の事業運営に対しご理解とご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、私事ではありますが、平成2年、学校給食会職員として採用以来30年目となりました。30年間の勤務期間中には、食品案内、学校給食管理システムのインストール作業等のために県内各方部の学校等を訪問し、会員の皆様には暖かく迎えていただきましたことに対し感謝申し上げます。

本会では、これまで学校給食に大きな影響を与えた狂牛病、O-157、遺伝子組み換え食品、中国産冷凍餃子事件、産地偽装、食物アレルギー、震災後の放射性物質等、食に関わる様々な問題への対応を行ってまいりました。現在では、HACCP、食品表示等の食品衛生及び管理体制強化への対応を進めているところです。平成24年4月から、公益法人としての食品提供事業、衛生管理及び普及充実事業等、各種事業活動を行っておりますが、今後も県内の学校給食を支え、守るメインサポーター「学校給食会」として、当栄養士部会様のご期待に沿えるよう努めてまいりますので、更なるご理解とご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

2つの町への給食づくり

柳津町・三島町学校給食センター

主任栄養技師 渡部 陽子

柳津町では、施設設備の老朽化に伴い、昨年度4月より新しい給食センターを開設しました。

新センターの開設とあわせ、柳津町内小中学校の他、県内で唯一給食を実施していなかった隣の三島町の小中学校への給食の提供もはじまりました。



柳津のB級グルメ「ソースカツ丼」を三島地鶏で作り、その他のメニューにも柳津町と三島町の食材を使った給食センター開設記念献立

センターの施設設備は全て新しくなり、冷暖房も完備され、とても恵まれた環境で以前同様の手作り給食を心がけています。

三島町への給食の提供にあたっては、子どもたちや保護者も給食の経験がないため、不安な中でのスタートでした。いざはじまると、「栄養バランスのとれた温かいものが食べられる」「嫌いなものも食べたらおいしくて好きになった」ととても喜んで、楽しく給食を食べてくれています。毎日の連絡簿には、「いつもおいしい給食ありがとうございます」と子どもたちからの感謝の言葉が書かれていて、職員一同パワーをもらっています。

これからも、2地域の子どものための健康のために給食からメッセージを送り、思い出に残る給食作りをしていきたいと思ひています。

「スポーツ栄養と栄養教諭の関わり」

二本松市立安達中学校 栄養教諭 武藤 真紀

「高校陸上部の女子で、下宿先の食事量では足りないようなんだけど、手軽に栄養補給できるものは何？」と聞かれて、スポーツ栄養に踏み入ったことが始まりでした。頑張っている子を応援するために、スポーツ栄養をしっかりと学び、「公認スポーツ栄養士」を目指すことを決意しました。まずは「スポーツ栄養ベーシックコース講習会」の受講申請をしましたが、すぐには受講できませんでした。次は、養成講習会と難関のインターシップです。高校野球部での栄養サポートを実施しました。どのようにスポーツ栄養マネジメントを進めるか、紆余曲折がありました。監督やマネージャー、保護者、熱心に取り組んでくれた選手たちの協力のおかげで、何度も挫折しながら何とか今年10月に「公認スポーツ栄養士」の認定書をいただくことができました。

栄養教諭がスポーツ栄養の指導を行うことの一歩の武器は「学校給食」です。学校給食は「栄養フルコース型」で、主食、主菜、副菜、汁物、乳製品、果物（予算に応じて）が揃った食事です。そして、給食を食べている児童生徒全てに「バランスの良い食事」を提供すること

ができます。また、私が勤務している中学校では「スポーツ栄養」の講話や、部活動での栄養サポートで身体組成の計測、栄養教育等を実施しています。

最後に、「食に関する指導の手引き－第二次改訂版－」第6章個別的な相談指導の進め方（p240）には栄養教諭の役割が「食に関する高い知識やスキルをもって、個別的な相談指導を主体的にかつ効果的にすすめる役割を担っています。」と記してあります。私は勤務校でスポーツ栄養マネジメントのノウハウを個別指導に役立てることができま

した。常に新しい知識と情報をもって、個別的な相談指導ができるように、日々学ぶ姿勢を大切にしていきたいと考えています。是非、皆さんもスポーツ栄養について一緒に学んでみませんか。



『架け橋として・・・』

いわき市教育委員会事務局 学校教育推進室 学校支援課 食育給食係 主任専門栄養技師 内山 久美子

昭和41年に5市4町5村が合併し、いわき市が誕生しました。合併当時、完全給食やミルク給食、おかずのみの給食等、旧市町村によりまちまちであった学校給食の足並みをそろえるため、共同調理場の設置が相次ぎました。この50年余の間に、学校給食は変遷を遂げ子どもたちの心と身体を作るかけがえのない存在になっています。

子どもたちを中心に、学校と学校給食共同調理場が家庭や地域と連携を図りながら食育を推進することとし、広域であるいわき市の特徴を生かせるよう、市内の栄養教諭・学校栄養職員が情報を共有して食育事業等を行っています。主な事業として「ふれあい弁当デー」を全小中学校を対象に継続的に実施しているほか、いわき海星高校とタイアップした「かじきカツ給食」や磐城農業高校の生徒が製造したトマトジュースを使用した「オリジナル食材使用献立」、更に、市内の料理人と連携した「和食給食」では魚の解体等実演を交えた給食交流会を

実施し、統一献立として市内全ての小中学校で提供しています。また、家庭での取組みも重要であることから、多くの保護者に給食の現場を体験して頂く事業として、共同調理場に入り場内の見学に加え、実際の調理体験と試食をする親子参加の「調理場体験ツアー」や、親子で料理する楽しさを伝える事業として「お弁当講座」を実施するほか、市のホームページに予定献立表や献立紹介、給食だより等を掲載するなど広報活動も行っています。

現在、児童・生徒の肥満率の高さや、成人の心疾患発症率が問題となっていることから、保健所と共に「実践の環を広げよう」を新たなコンセプトとして、家庭における食育の充実を図っていくとともに、今後も給食を架け橋として地域と関わり、子どもたちの心と身体を育むため、安全で美味しい給食の提供に努めて参ります。



令和元年度 表彰

文部科学大臣表彰受賞

- 〔学校給食功労者〕 新地町立新地小学校 栄養教諭 小泉 弘子
 〔学校給食優良学校等〕 会津若松市会津若松学校給食センター

公益財団法人福島県学校給食会表彰

- 〔学校給食優良団体〕 三春町立中郷小学校
 会津若松市立行仁小学校
 いわき市立勿来学校給食共同調理場
- 〔学校給食功労者〕 福島市北部学校給食センター 作業長兼技能主査 斎藤 好美
 郡山市立西田学園共同調理場 主任栄養技師 上遠野 美保子
 塙町立塙中学校 栄養教諭 上遠野 朋子
 会津若松市立永和小学校 主任栄養技師 五十嵐 朋子
 南相馬市教育委員会 主任栄養士 鈴木 美智代
- 〔県産食材活用部門〕 小野町給食センター

令和2年度 行事予定

- 学校給食施設訪問実施状況点検
5～12月 各施設
- 新規採用学校栄養職員研修「宿泊研修A」
6月1日(月)～3日(水)
- 第15回食育推進全国大会
6月27日(土)、28日(日)
愛知県(愛知県国際展示場)
- 栄養教諭・学校栄養職員調理技術講習会
7月27日(月) 福島県学校給食会
- 学校給食研究会栄養士部会研修会
7月28日(火) 郡山ユラックス熱海
- 学校栄養職員経験者研修Ⅱ
7月29日(水)～31日(金)
- 第61回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会
7月30日(木)、31日(金)
栃木県(県総合文化センター)
- 新規採用学校栄養職員研修「宿泊研修B」
9月1日(火)～3日(木)
- 栄養教諭等衛生講習会
9月8日(火)、9日(水) 福島県学校給食会
- 栄養教諭・学校栄養職員研修会
10月13日(火)、14日(火) 福島県学校給食会
- 第71回全国学校給食研究協議会
10月29日(木)、30日(金) 熊本県(熊本城ホール)

福島県学校給食研究会栄養士部会 ホームページ

<http://www.f-eiyou.jp>

おすすめの献立や給食だより、食の指導の資料など、皆様のお役に立つ情報が掲載されています。ぜひご活用ください。
 皆様のご意見やアイデア等お待ちしております。

編集後記

会報発行にあたり、お忙しい中原稿をお寄せいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。
 来年度も、子どもたちが健康な生活を送れるよう、「給食管理」と「食に関する指導」に取り組んでいきましょう。